

図書館員のひみつの本棚 第163回

今月は魔女の本のご紹介です。

『魔女に会った』

角野 栄子／文・写真 みや こうせい／写真 福音館書店 1993年 1300円(税抜)

<お勧め年齢>

乳幼児—— 低学年—— 中学年—— 高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆

高校—— 一般——

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

『魔女の宅急便』の著者が会った魔女たちが紹介された本です。

2月23日の「魔女の日」にドイツで行われる「ファスナハト」というお祭りや、同じくドイツにあるブロッケン山の近くの「ワルブルギスの祭り」では、町の人達が魔女の仮面や仮装を身につけてお祭りに参加します。ベルギーの「猫祭り」の最後を飾るのは「魔女の火刑」。魔女のお人形を燃やすのです。ルーマニアには今でも本物の魔女がいて、著者の角野さんはその魔女とひとときを過ごします。

長い歴史の中で、人間に敬われたり、疎まれたりしてきた魔女。著者はこの本の終わりにこう書いています。「長い間、人々は何かにつけて魔女に願いをたくしてきました。その願いがやさしいものだったとき魔女もやさしい顔をしていたような気がします。願いがみにくいものだったとき、魔女はおそろしい表情をうかべて、火の中にくずれていったように思えるのです。」

<子どもに手渡す時のポイント>

「たくさんのおしぎ傑作集」の1冊ですが、高学年から中学生が楽しめる本だと思います。先日、中学校1年生でブックトークをしましたが、そのくらいの年齢になると、魔女がどのような歴史を辿ってきたかの知識も少しあるらしく、子どもたちは興味をもって聞いてくれました。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

